



イケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

第 613 回 信頼関係を強固にするための五ヶ条

2015.1.25

ビジネスでも、友人とのお付き合いや恋愛でも、そして家族間の家庭関係においても、すべて人間同士の「営み」だ。いくら科学が進展しようと、驚異的な技術革命がなされようと、その元には「人」がいる。「営み」とは、人と人を取り持つインターフェースの結果の成せる「技」である。「営み」とは別の言い方をすれば、行儀・行ない・身性・仕打ち・振舞いと言ったりする。あるいは、身持ち・素行・所作・言動とも言うし、品行・行動・仕方・態度・行為・行状という場合もあろう。いずれすべての「営み」は、善良の結果としては、人と人との「絆」を産む元となる。そしてこの「絆」を形成する最大の要因は、「信頼関係」であろうこと、たぶん間違いない。深く、揺るぎない「絆」を産み出すためには、信頼関係をより強固にしなければならないだろう。

3・11の大惨事を契機に「絆」という言葉が、良く使われるようになった。それは一種、流行り言葉の如く、いとも安易に伝播し、復興エネルギーの象徴となっている。忘れかけていた「絆」という言葉を覚醒させた、それ自体、むしろ喜ばしいことかもしれない。しからば、「絆」を深め、広めるためにどうしたら良いか、小生、ずーっと考えてきた。

元経団連会長の**土光敏夫氏**（石川島播磨重工業社長、東芝社長等を歴任）の名言『**信頼関係を強固にするための五ヶ条**』なるものと、遭遇した。

これだ！と思い読んでみると、なんだか菲才な小生でも、少しずつなら、できそうな気になった。

- 一、相手の立場になって物を考える
- 一、約束をきちんと守る
- 一、言うことと行うことを一致させる
- 一、結果をこまめに連絡する
- 一、相手のミスを積極的にカバーする

これは正に「気配り」の基本、「おもてなし」と「労わり」の原点そのものであり、円滑なコミュニケーション形成の必須要素と同じであると気が付いた。

小生を含め、こんな簡単なことすらできないでいる人、たくさんいるかもしれない。

いかにも身勝手に、勘違いな自己主張、ちょっとだけ約束を果せなかった弁解の用意をし、言ったことを先送り、言いつ放しの案件がいくつあるだろうか。

報・連・相を面倒くさがったあの時があり、相手のミスを平気で叱ったりしている。

自分自身を顧みると、こんな簡単なことが、出来ていないことに驚愕する。

これはまさしく、自分自身への使命、つまり「**ミッション**」であるだろう。

この5つのミッションを完璧に守るだけで、明日からの「営み」が大きく変わるに違いない。

徐々に、徐々にと、燃え上がる氣勢を胸に秘め、この五ヶ条を手帳に大きく書き込んだ。

何か新しい、嬉しい体験をした時は、勝手に誰かに言いたくなる…いい歳をして申し訳ないとも、思っているのだが…、小生生来の悪癖が、今回のコラムとなった。